２０１９年度
第２回 理事会議事録

２０１９年 ６月 ７日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

２０１９年度　第２回理事会議事録

１．日　　時　　２０１９年 6月 7日（金）　１１：４５～１２：５５

２．場　　所　　鉄鋼会館　８０５号会議室

３．構 成 員　　１５名

４．出席構成員　　１５名（別紙 出席者名簿参照）

５．議 事 次 第

(1) 開会の辞

(2) 定足数確認報告（定款第 36 条）

(3) 会長挨拶

(4) 前回理事会の議事録確認

(5) 議案の審議

1) 第 1 号議案　第 52 回通常総会 議案書確認の件

(6) 報告事項

1) 国交省が実施する「高力ボルト実態把握調査」等への協力について

2) 埼玉県鉄構業協同組合からの「意見書並びに要望書」について

(7) その他の事項

1) 構成員登録状況

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

3) 主要会議日程

4) 支部報告

5) 事務連絡

(8) 閉会の辞

６．議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の齊藤専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

齊藤専務理事より、本理事会は、全理事 15 名が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「本日は、総会をはじめ、夕方まで予定が詰まっており忙しいが、円滑に進むようご協力をお願いしたい。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

齊藤専務理事が要点のみ読み上げ、確認、了承された。

(5) 議案の審議

1) 第 1 号議案： 第 52 回通常総会 議案書確認の件

第 52 回総会議案書の、各議案の主要点等について、齊藤専務理事より説明され、意見、質問等はなく、当日の総会は本議案書にそって進めることが承認された。

議長選任後、議案の審議に先立ち、旭日小綬章を受章された米森会長に対して、慶弔規程による協会からのお祝を、会員を代表して伊藤議長より手渡すことが、また、役員選任後の、専務理事等選定のための理事会は、効率化のため、別室に移動せず総会議場最前列に集結して開催することが確認された。

(6) 報告事項

1) 国交省が実施する「高力ボルト実態把握調査」等への協力について

国交省では、高力ボルトの使用原単位（鉄骨単位重量あたりの高力ボルトの使用量）など高力ボルトの使用実態を把握するため、「高力ボルト実態把握調査」を実施する予定で、当協会にも調査への協力要請があり、検討の結果、これに応じて協力することとしたことが報告された。

アンケート調査に応じる構成員を各県単位に 12 社選定し、全構協事務局経由その一覧表を国交省に提出し、選定された構成員に対しては、国交省から直接協力依頼文書及びアンケート票を送付するなどの調査の手順、調査項目、スケジュール等の案が、議案書[理 19-2-報 1](p5-17)にそって事務局から説明され、協議の結果、本案にそって協力することが了承された。

2) 埼玉県鉄構業協同組合からの「意見書並びに要望書」について

6 月 3 日付で埼玉県鉄構業協同組合 華岡理事長から米森会長宛てに提出された、同組合専務理事の総会傍聴及び懇親会参加を求める「意見書並びに要望書」が別途配布資料[理 19-2-報 2]により提示され、協議の結果、従来からの方針に従い、認

めないこととすることが確認された。

〔協議における意見〕

・本来、総会の議場に入ることができるのは議決権を持つ者に限定されるのが原則である。しかし、数年前の理事会において「次期理事長候補等の副会長には全構協の活動を体感する勉強の機会を与えたい」との意見が出されたことを受けて、三役会で協議した結果、限定的に上記原則の例外を設け、副理事長 1 名のみの総会傍聴及び懇親会への参加を認めることとする案を理事会に諮り、了承されたものである。

・「意見書並びに要望書」記載のとおり、規程上論理的には専務理事も理事長候補になり得るが、現実論、実際論として専務理事が理事長に昇格する例は稀有であり、個別論として当該専務理事が理事長候補であるとの記載もない。
さらに、規程上論理的に理事長候補になり得る者まで全て認めることになれば、総会傍聴者が際限なく広がることとなり、限定的に原則の例外を設ける、という当初の趣旨に反することになる。

(7) その他の事項

1) 構成員登録状況

2019 年 5 月末日時点の構成員数は、2,212 社であること等が、議案書[理 19-2-他 1](p19-23)により、齊藤専務理事より報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

4 月の鉄骨推計需要は 40.2 万トン（前年同月比 8.4%減）であったことが、議案書[理 19-2-他 2](p25)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

議案書[理 19-2-他 3](26p)により確認された。

4) 支部報告

〔北海道〕

・Ｈグレードファブは、来年も 70～80％分の予定が決まっている。

・価格に関して、釧路地区で突出した単価になっているが、これは牛舎等 40 万円/トンの物件が含まれているからである。道央地区も、難加工物件があるため高い単価となっている。

〔東北〕

・手持工事量は多く、Ｈグレードは来年春まで、Ｍグレードは今年末までの仕事を確保している。

・しかし、見積量は減少しており、今後の発注量減少を懸念している。

・高力ボルト（ＨＴＢ）不足により、受注済物件が中止や延期になる例もみられるが、同業者間の仕事の融通で凌いでいる。

・価格は、維持されている。

〔関東〕

・手持工事量は多いが、見積量の減少を指摘する県が増えつつある。

・栃木県から、幼稚園､老人ホーム等の比較的小規模な物件の木造化の動きがみられることから、手持工事量が比較的多い現在は影響が少ないが、将来を見据え今から対策を講じておく必要があるとの意見が出されている。

〔北陸〕

・前回報告時からの変化はなく、多忙な状態が続いているが、引合量は減っており、将来に対する不安を感じている。

〔中部〕

・大きな変化はないが、Ｒ、Ｊグレードの仕事量減少がみられるようになり、Ｍグレードも２極分化している。

・半導体工場の稼働率が低下しており、それ以外の業種も含め製造業の設備投資への影響を懸念している。

〔近畿〕

・Ｈグレードは手持仕事量が多く多忙であるが、Ｒ、Ｊは､ＨＴＢの影響もあり手持仕事量は３ヵ月分程度まで減少し､さらにＳ造以外の構造への変更も含め見積量も減少していることから､既に不況期に入っているとの見方も出ている。

〔中国〕

・県によるバラツキが出はじめた。

・ＨＴＢ不足の、短工期物件への影響が大きく、Ｓ造に陰りがみられる。

・そうした中でも、広島県に関しては、この先も大型プロジェクトが計画されており、当面高い需要水準が継続することが期待されている。

・特定技能外国人に対する関心が高く、情報を求める声が上がっている。

〔四国〕

・現在の手持工事量は多いが、ＨＴＢ不足の影響も大きく、特に来年 4 月以降の物件見積が極端に少ないことから、将来に対する不安が大きくなっている。

〔九州〕

・ＨＴＢが不足しているとは言いながら、多忙な状態が続いている。

・ＨＴＢ不足が原因で受注できないＲ、Ｊファブも、Ｈ、Ｍの 2 次下請で何とか凌いでいる。

・大型物件の計画はあるが、後ろずらしになっていく傾向がみられることが気掛かりである。

○以上をふまえて、米森会長が以下のとおり総括された。

・ＨＴＢ不足の影響は相変わらず深刻ではあるが、大型物件に関しては、致命的な状況に陥ることなく、なんとか凌ぐことができている。

・官公庁物件に関しては、施主と事前協議を綿密に行ったうえで先行手配するなどの措置を講ずることで、工事への影響を回避する例もみられる。

・米中貿易問題をはじめとする不安定な国際問題が日本経済に与える影響を、緊張感を持って注視することは必要だが、悲観的になることはない。
・工事物件数は減少しているが、量的には維持されているので、事業者間で相互に融通し合うなど、協力してやっていくことが必要である。
・オリンピック前後で一時的に需要減となることは予想されるが、その後は、比較的安定した需要が継続すると思われるので、疑心暗鬼になって価格を崩すような、過去の轍を踏んではいけない。

5）事務連絡

前回理事会において近畿支部で開催することが決まった 11 月 21 日開催予定の第 5 回理事会は、大阪市の「ホテル プラザオーサカ」を会場とすることが、事務局より報告された。

また、伊藤近畿支部長より、当日は、理事会に併せて近畿支部各県理事長との懇親会のみ行い、意見交換会は開催しない旨説明された。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の事項とも、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

（別　紙）

出 席 者 名 簿

会　　長	米　森	昭　夫
副 会 長	村　山	功
〃	永　井	毅
〃	高　橋	伸　和
専務理事	齊　藤	眞
理　　事	中　村	泰男
〃	渡　辺	勝
〃	大　竹	良　明
〃	西　村	仁
〃	大　島	嗣　雄
〃	伊　藤	佳　治
〃	山　本	泰　徳
〃	井　原	常　裕
〃	神　崎	隆　一
〃	大　橋	利　勝
監　　事	村　上	眞　樹
〃	野　田	博　文

理事総数　１５名　うち出席者　１５名
監事総数　　２名　うち出席者　　２名